

令和7年1月6日

秘書室

担当 堺

内線 2012

直通 092-643-3008

令和7年 職員に対する知事年頭挨拶

日時：令和7年1月6日（月）9時30分～

皆さん、明けましておめでとうございます。皆様方には、健やかに新しき年をお迎えることとお慶びを申し上げます。どうぞ今年もよろしくお願い申し上げます。

今年は好天にも恵まれまして、穏やかな年明けとなりました。しかし、昨年を振り返ってみますと、元旦には令和6年能登半島地震が発生、そして、また3日には、北九州市小倉北区の鳥町食堂街が焼損するなど、災害や火災の恐ろしさと、そしてまた、備えというものの大切さということを、思い知らされた、改めて認識をさせられた年であったと思っております。

今年は巳年でございます。蛇は非常に生命力が強い生き物と言われております。その生命力の強さから、「再生と復活」の年であるとも言われております。被災地の一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。

それと同時に、改めて、私たち自身、我々に課せられた最大の使命は、県民の皆様の命を守る、安全を守ることである、そのことを再確認し、そして災害や感染症などのリスクから県民の皆様の命を、安全を守ることを第一として、防災・減災・県土強靱化の取組をしっかりと進めてまいりましょう。日頃からの備えを怠らない、このことが極めて重要であると思えます。

そして、国の内外を見渡してみますと、我が国はかつてないほど厳しい国際情勢の中におかれております。こういった影響もあり、エネルギー価格や原材料価格など、各種の諸物価の高騰という状況も続いているところでございます。そして、内にあっては、少子高齢化の急速な進行、人口減少と一極集中に伴います地方の疲弊・衰退、そして、未だ抜け出せずにあります30年続いたデフレからの脱却、このためにもです、実現しなければならない賃金と物価の好循環、こういった先送りできない、そしてまた複雑かつ困難な課題に我々は直面していると言わざるを得ません。

我々は、こういったリスクやタスク、こういったものから、目をそらすことなく、直視をしていかなければなりません。さあ、皆さん、ため息をついている暇はございません。これらの課題から逃げることなく、真正面から取り組み、これを乗り越え、そして、私たちのふるさと福岡県をさらなる高みへ、飛「躍」をさせてまいりましょう。「躍」進の道へ導いてまいりましょう。

こういった思いから、私は今年の県政のテーマを漢字一文字で、「躍」とさせていたしました。まさに今、九州の産業・経済は、大きく「躍」動しております。視点を高く、そして視野を広く、私たちはこの九州、また日本の、そして世界の様々な動きをしっかりと捉えていかなければなりません。情報というものは非常に重要でございます。しかし、今、この情報も質より量、虚実ないまぜとなった情報があふれていると言わざるを得ません。私たちは、この中から事実を、ファクトをしっかりと見分け

ていく、この力が必要でございます。そして、我々が持っている最大の強み、これは現場に近いということでございます。県民の皆様、生活者の、事業者の皆様の生の声をしっかりと聞き取り、聞き分け、そして、それを政策に生かしていく、このことが我々に求められているのです。イノベーションを生み出す人材を育てる、成長を牽引する産業を育てる、未来への扉を押し開ける、このような政策を考え、そして力強く実行していかなければなりません。

そして、私たちは、福岡県に暮らす誰もが、「本当にここに住んで良かった」と笑顔で言ってくれるような、それぞれの皆さんが年齢や性別や国籍やあるいは障がいのあるなし、こういったことにかかわらず、人権が尊重され、輝き、活躍できるそんな福岡県を作ってまいりましょう。

私は、信頼する「仲間」である、県職員の皆様方と共に、手を携えて、「さらなる高み」を目指して失敗を恐れず、前進をしてまいりたいと考えております。このためにも、引き続き、職員の皆様方の持つ情報や意見や流通しやすい、そして職員の皆さんがストレスなく仕事ができるそんな職場環境の整備を続けてまいります。

新しき年が、皆様にとって素晴らしい一年となりますことを心よりお祈りし、そしてまた、今申し上げましたような福岡県の未来に向かっての取組が前進をする、このことのために、皆様方のご活「躍」を心より祈念を申し上げ、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

皆さん、今年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。